

校長室から

平成30年5月29日

3年生 修学旅行から考える

「合唱の長町なので、歌で感謝の気持ちを…」

5月23日(水)～25日(金)の3日間、3学年が修学旅行を実施しました。生徒達が実行委員会を組織し、生徒全員と学年の先生方が一緒に考え、準備し、笑顔で活動し、無事に帰校しました。28日(月)の解団式では、「夢のような3日間でした。」といった感想も聞かれ、団長として参加した私も、大変晴れやかな気持ちになりました。

この3日間で、長中生のすばらしい行動にも沢山触れることができました。自主研修に向かう電車で乗客や先生方に席を譲ろうと声掛けしてくれた生徒達、夕食を先生方に運んでくれた男子生徒、ディズニーランドで食事が終わった後に、自分のティッシュを取り出してテーブルを拭いていた女子生徒。私は、学年の先生方とレストランで長い時間、ミーティングをしながら、多くの修学旅行生を見ていましたが、テーブルを拭いて次の活動に移動していった中学生は長中生だけでした。このような行動が何気なく自然に出来る事がすばらしいですね。

旅行2日目の朝には、3つの大きなグループに分かれて、それぞれの研修場所へ移動して行きました。その中の1つのグループはホテル内での活動だったので、約100名の生徒が移動せずに残りました。

このグループでは、研修でお世話になる担当の係の方々に、活動が終了したら感謝の気持ちをどのように伝えるかという話し合いがなされていました。「カードに感謝の気持ちを書いて渡す。」「歌や合唱で感謝の気持ちを表現する。」「直接、言葉で感謝の気持ちを伝える。」等、本当に真剣に話し合っ、意見が出されました。その中で「合唱の長町なので、歌で感謝の気持ちを伝える。」と発表してくれた生徒がいました。

生徒達は、他の中学校で生活した事がないので、比較する対象がないため、気付けないと思いますが、「合唱の長町」というように自分たちの学校を、誇りをもって表現できる事はなかなかできないものです。

活動が終了した後、とても美しい歌声で感謝の気持ちを表現した生徒達。私の横で聞いてくれた担当の方は、生徒達の歌声を聞いて、「こんなに素敵なプレゼントをいただいて、とてもうれしいです。こんな事は今までありませんでした。」と涙を流しながら、私に話しかけてくれました。私も感動で涙が出ました。

普段、何気なく学校生活が繰り返されているようですが、生徒の心の中にこれまでの先輩達が築き上げたものが引き継がれ、それをしっかりとした形で表現できる事、まさしくこれが長い年月で培われてきた伝統なのだと思います。伝統を守りながら、新しいものを積み上げていく。とてもすばらしい事です。そして、長町中学校の伝統という事だけでなく、生徒個々人が、人を気遣う気持ちや優しさを素直に表現しつつ、個性を生かして成長してくれている姿をととても頼もしく感じました。